



かがやけ みんなの えがお

教育予算の
増額を!

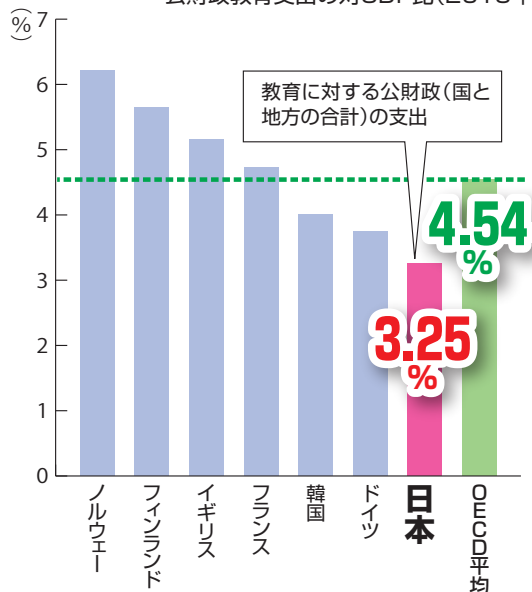
教育費の
無償化を!

お金の心配なく安心して学びたい

みんなの運動で、大学生向けの「給付型奨学金」が創設されました。しかし金額もわずかで、支給されるのは、現在奨学金をかりている人たちの0.5%だけです。必要とするすべての高校生・大学生に支給できる「給付制奨学金」を

6.8兆円の増額で OECD平均並みの教育費に

公財政教育支出の対GDP比(2013年)



出典：OECD「図表でみる教育」(2015年度版)



全日本教職員組合(全教) / 教組共闘連絡会 / 子ども全国センター / 憲法・教育基本法全国ネット

連絡先 〒102-0084東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3階 全日本教職員組合
TEL(03)5211-0123 FAX(03)5211-0124 e-mail zenkyo@educas.jp

文部科学大臣 様

2018年度政府予算にむけた文部科学省概算要求に対する要請署名

子どもたちのえがおがあふれ、豊かな学びができる学校は、私たちの願いです。幼児教育から大学教育まですべての子どもたちの学ぶ権利を保障し、国の責任で、誰もがお金の心配なく安心して学べる制度を確立することが求められています。そのため、2018年度政府予算に向けた文部科学省概算要求において、ゆきとどいた教育を前進させるための大幅な予算増を求めます。

貧困と格差拡大が、子どもの安心のよりどころである家庭を直撃しています。誰もがお金の心配なく、安心して学べる環境が必要です。教育の機会均等を保障し、教育費の無償化をすすめるためにも、「就学援助制度」の充実と高校生への拡充、高校生・大学生への「給付制奨学金」の拡充が求められています。また、高等学校等就学支援金制度の「3年経過後の見直し」にあたっては、「高校無償化」を復活することが求められています。少なくとも910万円の所得制限のラインを下げることはあってはなりません。

多くの地方自治体では父母、地域住民、子どもたちや教職員の願いをもとに小学校3年生以降への少人数学級の前進を独自にすすめています。少人数学級の実施によって、子どもたちによりきめ細やかな対応やよりゆきとどいた教育ができるようになってきています。小学校から高校までの少人数学級を実現するとともに、障害児学級・障害児学校の過大・過密の解消をはかり、新たな教職員定数改善計画をすすめるべきです。

東日本大震災・福島原発事故から6年が過ぎましたが、住民のくらしと学校の復旧は十分にすすめられているとはいえません。被災地の声を真摯に受け止め、子どもたちの命と安全を最優先し、子どもたちを人間として大切に作る学校・地域をつくるための計画的な予算措置と人員配置が必要です。

OECD諸国の中で最低水準となっている公財政教育支出の対GDP比を、OECD諸国平均並みに引き上げることで、これらの課題を解決することができます。

以上のことから、2018年度政府予算にむけた文部科学省概算要求に以下のことを盛り込むよう要請します。

1. 国の教育予算がGDP比でOECD諸国平均並みの水準となるよう、計画的に増額をはかること
2. 教育の機会均等を保障するために、教育条件整備をおこなうこと
 - ①「就学援助制度」を充実させること
 - ②必要とするすべての高校生・大学生に支給できる「給付制奨学金」を実現すること
 - ③高額すぎる大学等の授業料を引き下げること
3. 高等学校等就学支援金制度の「3年経過後の見直し」にあたり、「高校無償化」を復活し、公私ともに学費の無償化を前進させること
4. 国の責任で小・中学校および高校の35人以下学級を実現するために、教職員定数を計画的に改善すること
5. 障害児学級・障害児学校の過大・過密の解消をはかり、定数改善をすること
6. 東日本大震災・福島原発事故や自然災害などの被災地における子どもを守るため、学校と地域の復旧・復興をすすめること

氏 名	住 所

*上記個人情報、文科省へ提出する以外には使用しません

2017年7月21日(金)まで